



これまでケーブルからローカルな話題やエリア情報などをお届けします

10
がつ

今月のコマド里は

上北山村のご紹介!!

<https://www.vill.kamikitayama.nara.jp/>

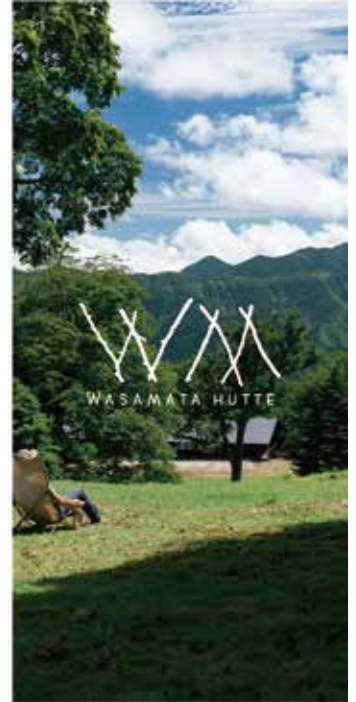
昨年10月1日にオープンした「WASAMATA HUTTE」で 上北山村の秋を思う存分楽しもう!!

“ありのまま”の自然を感じる

満天の星空。大台ヶ原を望む夕焼け。原生の薫り漂う森。いきものたちの気配。自然と向き合い、自分を見つめ、生きるチカラを蓄える。そんな時間がここにあります。



■WASAMATA HUTTE は、標高1150mに位置するキャンプ場&ヒュッテです。大峰山系のひとつ、大普賢岳への登山ルートとして、年間多くの登山者が訪れるエリアとなっています。ヒュッテ前に広がるキャンプフィールドはかつてのスキー場。斜面上部のシンボルツリーに設置されたツリーデッキを登れば、大台ヶ原を望むことができ、夜には満天の星空が広がります。フィールドをさらに登ると、ブナの中に赤いヒメシャラの巨樹が美しく映える広葉樹の森が広がっています。



- ◇名称◇
WASAMATA HUTTE(旧:和佐又山ヒュッテ・キャンプ場)
- ◇住所◇
吉野郡上北山村西原1055-1
- ◇定休日◇
定休日あり(臨時休業あり)
※4月~11月は水曜日定休(祝日・ハイシーズンを除く)
※定休日の前日は予約不可
※12月~3月は土日祝のみ営業
- ◇施設◇
ヒュッテ(管理棟): 宿泊20床、受付・ショップ・カフェ・シャワー
キャンプ: オート15サイト、フリー20サイト
ロッジ: 5棟
- ◇駐車場◇ 30台(身障者用1台含む)
普通車1,000円、大型車(マイクロバス等)2,000円、バイク500円
※大型車の利用は事前に電話にてご予約ください。





WASAMATA HUTTE

■全国から多くの登山客が訪れる大峰山脈への登山の拠点となる山小屋「WASAMATA HUTTE（和佐又山ヒュッテ）」。

木造平屋造のヒュッテ（管理棟・宿泊棟）はドミトリー形式のお部屋、20床までの宿泊が可能で、早朝登山、団体合宿、ワーケーション滞在など、多くの目的に利用可能です。カフェ・レストラン・交流スペース・売店とランドリールームも設置しています。

ACCESS

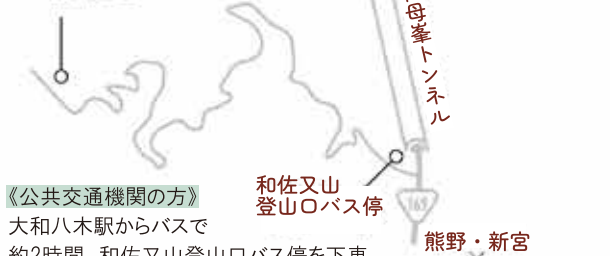
《お車でお越しの方》

【奈良・京都方面】

国道24号線→橿原市→国道169号線
 経由（奈良市内から約2時間半/橿原市内から約1時間半）



WASAMATA HUTTE



《公共交通機関の方》

大和八木駅からバスで約2時間、和佐又山登山口バス停を下車、徒歩で約1時間20分。
 ※大台ヶ原行バスは4月下旬～11月末ごろまでの運行。



カフェ・レストラン・交流スペース



キャンプ場（フリーサイト）



キャンプ場（ビッグサイト）



キャンプ場（林間サイト）

【WASAMATA HUTTEお問い合わせ先】

<https://wasamata-hutte.com>
 〒639-3704 吉野郡上北山村西原1055-1
 TEL/FAX 07468-3-0027



キャンプ場またはヒュッテ(宿泊棟)のご予約はこちらから



Instagram 最新情報はこちら
 wasamata_hutte

【Leave No Trace】

アウトドア活動において環境へのインパクトを最小限に抑える国際的な環境倫理プログラム“Leave No Trace”（以下LNT）の考え方を導入しています。

Leave No Trace 7 原則

- 原則1 事前の計画と準備
- 原則2 影響の少ない場所での活動
- 原則3 ゴミの適切な処理
- 原則4 見たものはそのままに
- 原則5 最小限のたき火の影響
- 原則6 野生動物の尊重
- 原則7 他のビジターへの配慮



◆◆◆編集後記◆◆◆

【その他お問い合わせ先】
 上北山村役場企画政策課
 住所 上北山村河合330
 TEL 07468-2-0002

今月のコマド里は上北山村のご紹介です。上北山村は「ヒルクライム」が有名で、毎年多くの自転車乗り＝サイクリストたちが村に集います。日本百名山・大台ヶ原のゴールめがけて麓から28Kmのコースを自転車で走る、それがヒルクライム。村の美しい景色を眺めながらの緩やかなコースから約10Kmをすぎると心臓破りの坂が続くハードなコースを走ります。ゴールの先の感動を求め、毎年約800名が参加するそうです。また、宿泊施設の「フォレストかみきた」では肌がきれいになり美人になると評判のアルカリ性単純温泉の「上北山村温泉薬師湯」が人気です。この秋はぜひ紅葉を楽しみながら上北山村へ訪れてみてはいかがでしょうか♪

ガイド誌担当：Y